

表 7-1 わが国の人口の年次推移

	総人口 ¹⁾ (千人)	人口増減率 ²⁾ (%)	人口密度 (1 km ² 当たり)	人口性比 (女 100 対男)
昭和 25 年 ('50)	83,200	1.75	226	96.3
30 ('55)	89,276	1.17	242	96.6
35 ('60)	93,419	0.84	253	96.5
40 ('65)	98,275	1.13	266	96.4
45 ('70)	103,720	1.15	280	96.4
50 ('75)	111,940	1.24	301	96.9
55 ('80)	117,060	0.78	314	96.9
60 ('85)	121,049	0.62	325	96.7
平成 2 ('90)	123,611	0.33	332	96.5
7 ('95)	125,570	0.24	337	96.2
12 ('00)	126,926	0.20	340	95.8
17 ('05)	127,768	△0.01	343	95.3
22 ('10)	128,057	0.02	343	94.8
27 ('15)	127,095	△0.11	341	94.8
令和 元 ('19)*	126,167	△0.22	...	94.8

資料：総務省統計局「国勢調査報告」、*は「人口推計（令和元年 10 月 1 日現在）」

注：1）各年 10 月 1 日現在人口（昭和 45 年までは沖縄県を含まない）。

2）人口増減率は、前年 10 月から当年 9 月までの増減数を前年人口で除したものと。

（厚生労働統計協会 編：国民衛生の動向 2020/2021、厚生労働統計協会、2020）

3. 人口ピラミッド

人口構成の全体像を明らかにするために、性別・年齢別人口を層状に積み上げ図示したものが**人口ピラミッド**である。人口ピラミッドのパターンにより、ピラミッド型、ベル型、つぼ型、星型・都市型、ひょうたん型・農村型があり、それぞれの特徴が認められる（図 7-1）。2019（令和元）年 10 月 1 日時点のわが国の人口ピラミッドを図 7-2 に示す。第二次世界大戦の影響で 70～72 歳と 45～48 歳を中心に 2 つの膨らみがみられ、出生数が年々減少していることにより**つぼ型**へ移行した。

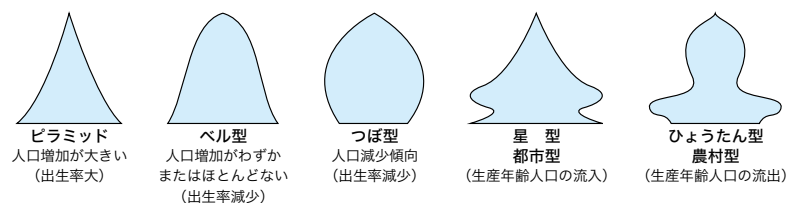
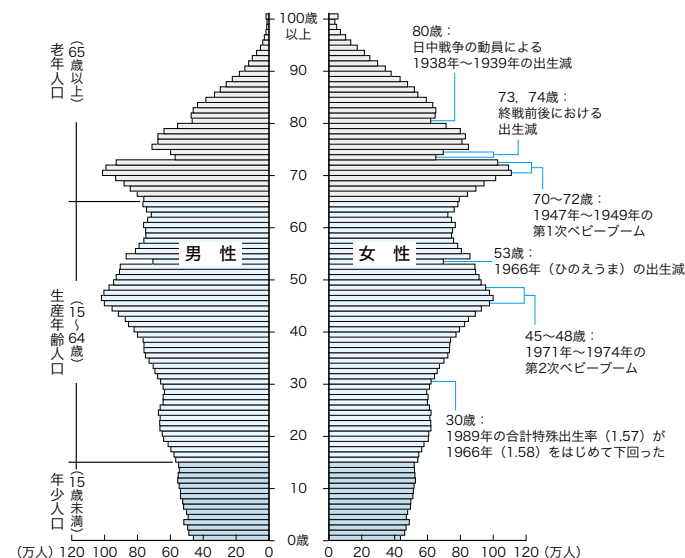


図 7-1 人口ピラミッド

（柳川洋、中村好一 編：公衆衛生マニュアル 2017、p.42、南山堂、2017）

図 7-2 わが国の人口ピラミッド（2019（令和元）年 10 月 1 日現在）
（総務省統計局：人口推計（令和元年 10 月 1 日現在）、2020）

2 年齢別人口構造の指標

1. 年齢 3 区分別人口

人口の年齢構造を表す指標として、**年少人口**（15 歳未満）、**生産年齢人口**（15～64 歳）、**老年人口**（65 歳以上）の年齢 3 区分別人口があり、これを用いてさまざまな統計指標が算出される（表 7-2）。

2. 年齢 3 区分別人口構成割合

2019（令和元）年の老年人口割合は 28.4%で、前年より 0.3 ポイント上昇しており、人口の高齢化が進んでいる。また、年少人口割合は 12.1%と年々減少しており、少子化も進行している（表 7-3）。

表 7-2 人口統計の主要指標

全人口に対する割合	年少人口割合＝年少人口/全人口×100
	生産年齢人口割合＝生産年齢人口/全人口×100
	老年人口割合（高齢化率）＝老年人口/全人口×100
生産年齢人口との比	年少人口指数＝年少人口/生産年齢人口×100
	老年人口指数＝老年人口/生産年齢人口×100
	従属人口指数＝（年少人口＋老年人口）/生産年齢人口×100
年少人口との比	老年化指数＝老年人口/年少人口×100